

第 56 回テーマ

幸せな社会とは？

選挙が近いせいか、昼間は街頭演説など活発な動きが見られる。今回の参院選の争点がみにくい部分もあるが、もっぱら話は「消費税」問題。総理大臣の一言もあった、という事だが、これだけ景気が悪い中で、増税話を持ってくるのは、庶民感覚としては不思議に感じてしまう。

もちろん、財政状態が非常に厳しいという理由はわかる。しかしながら、当初の民主党の公約では「無駄を省いて、それでも負担が必要ならば増税を！」という説明だったと思う。その「無駄」の部分についての経過報告や、その後の見通しといった部分の説明や、今後の成長戦略などの取り組みが見えない中では、到底、容認できない話であろう。

先日、クライアント先のオーナーとの話で、日本の将来について語り合った。アメリカ型の競争社会では、もっと格差が広がってくるのではないかとか、10年後・20年後の日本はかなり世界から遅れを取るのではないかとか。今、ヨーロッパ諸国のように、消費税負担率を上げて、社会整備に力を入れる...という政策に軸をシフトさせる動きがあるが、一方で、国民年金の未払い問題や比率は改善されず、将来年金を受け取れる人口は少なく、その部分を消費税で賄うというのは間違いではないが、働く意欲や競争意欲が逆に失われるのではないかとか。とにかく色んな話をした。

人の「幸せ感」とは十人十色、いや一人百色にも多様化しているので、どのような道筋で日本を創っていくのか？という指針が必要だと思う。決して、増税する事を否定しているのではなく、正しく使ってもらいたい、という部分が意見としては一番大きいのではなからうか？そこにある「利権・特権」といった部分や不公平感などが生じれば、反発が起きるのは間違いない。一部、若者の中には「いざとなれば、生活保護を受けて生きていけばいい」という、ネガティブな発言が上がっているのも事実である。このままでは世界には取り残され、ますます貧富の格差が広がる事は言うまでもない所だ。

国も企業も、しっかりとした「グランドデザイン」が必要だし、もっと言えば、そこには決してブレない「指針（軸）」が必要だと思う。リアルも大事だが、理想を追いかける事もまた、重要ではなからうか。